

ドイツ北部の都市ハンブルクにおける「多世代の家」 —3つの事例からみたそれぞれの地域の居場所のかたち—

THE REGIONAL CONTEXT OF 'MEHRGENERATIONENHAUS' IN HAMBURG, THE NORTH OF GERMANY - THE PLACE OF EACH COMMUNITY IN THE THREE CASE STUDIES -

○竹澤 くるみ^{*1}, 佐藤 栄治^{*2}
Kurumi TAKEZAWA, Eiji SATOH

This paper reports on three cases of “Mergenerationenhaus” settled in state of Hambrug, North Germany. It outlines how each facility operates, the distinct programs they offer, considering the specific characteristics of their respective regions, and facility planning. These cases play a crucial role in addressing local social issues by providing inclusive spaces where people of multi-generations, religion, and immigrants/refugees backgrounds can interact. Each case demonstrates a tailored approach to regional needs, offering distinctive programs that promote social cohesion, community engagement, and mutual support among diverse groups.

Keywords : Mehrgenerationenhaus, Hambrug, Place of Earch Community

多世代の家, ハンブルク, 地域の居場所

1. はじめに

1.1 本稿の概要

ドイツでは2006年から、ドイツ連邦政府による「Mehrgenerationenhaus（和訳：多世代の家）」（以下、MGH）プロジェクトが推進されている。MGHは、多世代が集まり、交流や出会いが生まれる場、地域住民の生活上の様々な課題解決に向けた取り組みを行うことができる場、として整備されている。

ドイツのMGHについての既往研究としては、山田らの一連の研究がある。2023年10月に行われた現地調査をもとに、MGHの概要や立地特性についての分析が行われている^{1) 2)}。また、フランクフルト³⁾、ライプツィヒ⁴⁾、ニュルンベルグ⁵⁾、自治体全体で取り組む分散ネットワーク型の事例⁶⁾、老人ホーム併設型の事例⁷⁾、などの様々な事例報告が行われている。

本稿では、2024年9月に行った現地調査で訪問したMGH計14事例のうち、ドイツ北部のハンブルク州に設置された3か所のMGHについて、現地でのヒアリング調査

および実測調査からまとめた、各事例の取り組みや地域の居場所としての役割について報告する。

1.2 ハンブルク州の概要

ハンブルク州は、ドイツ北部に位置する都市で、正式名称は、「自由ハンザ都市ハンブルク (Freien und Hansestadt Hamburg)」である。北海にアクセス可能なエルベ川河口に位置する、ドイツ最大の港湾都市であり、中世の時代からハンザ同盟の主要都市として発展してきた歴史がある。貿易や交通の要所としての機能を持つ、ドイツ北部の経済の中心地と言える。

ドイツ連邦統計局⁸⁾によると、ハンブルク州の面積は約755 km²、人口は約185万人（2022年の国勢調査をもとにしたデータ）、人口密度は約2,450人/km²であり、人口・人口密度共に、ベルリンに次いでドイツで2番目に大きい都市である。また、首都ベルリンと同様に、単独で州としての行政権限が認められている都市州 (Stadtstaat) である。外国籍人口は349,317人で、人口の18.9%を占める。そのうち、100,613人（28.8%）はEU圏内からの

^{*1} 宇都宮大学大学院地域創生科学研究科先端融合科学専攻・博士後期課程・日本学術振興会特別研究員DC・修士（工学）
^{*2} 宇都宮大学地域デザイン科学部建築都市デザイン学科 教授・博士（工学）

Grad. School of Regional Development and Creativity, Utsunomiya Univ., Research Fellow of Japan Society for the Promotion of Science, M. Eng. Prof., School of Regional Design, Utsunomiya Univ., Dr. Eng.

移民であるが、この値はドイツの16州と比較すると4番目に低い値であり、つまり、EU圏外からの移民が多いことを意味する⁸⁾。

ハンブルク州は、7つの地区 (Bezirke) に分かれている。それぞれの地区名は、アルトナ (Altona)、ベルゲドルフ (Bergedorf)、アィムスビュッテル (Eimsbüttel)、ハンブルクミッテ (Hamburg-Mitte)、ハンブルクノルド (Hamburg-Nord)、ハールブルク (Harburg)、ヴァンズベック (Wandsbek) である。ハンブルク州の7地区のうち、ハールブルク地区以外の6つの地区にそれぞれ1事例ずつ、計6事例のMGHが整備されている。

2. 事例1: Mehrgenerationenhaus Hamburg Altona -FLAKS

■訪問日: 2024年9月5日

■担当者: Dr. Ann-Kathrin Tranziska (MGH管理者)

2.1 施設概要

アルトナ地区のアルトナ・ノルド区に位置するMGHで、施設概要について以下に示す。

□所在地: Alsenstraße 33, 22769 Hamburg, ドイツ

□運営者: FLAKS e.V. ^{注1)}

□構造・規模: RC造、2階建て

□敷地面積: 約1,300 m²

□建築面積: 約500 m²

□延床面積: 約800 m²

□活動開始年: 1999年

□MGHプロジェクト参加年: 2008年

2.2 地区の特徴と設立経緯、活動コンセプト

1) 地区の特徴 アルトナ地区は、ハンブルク西部に位置する地区である。かつてはデンマークの支配下であり、漁村として繁栄していたが、1937年にハンブルクに編入された。アルトナ地区の人口は280,838人で、そのうち外国籍人口が51,821人で約18.5%を占めている⁹⁾。



写真1 FLAKS 外観写真

また、移民の背景を持つ人口は102,547人で、総人口の36.5%を占めている⁹⁾。

2) 設立経緯、活動コンセプト FLAKSの活動コンセプトは、「女性から女性へ」であり、女性同士の交流に主眼を置いている。ドイツでも、出産や子育てでは女性の負担が重く、仕事をセーブすることによるキャリア形成の困難さ、年金の減少などの不利益を女性が受けている。また、女性が教育を受けることができない国や、一夫多妻制の国から移住してきた女性も一定数存在するなど、移民女性の教育や社会進出のサポートが必要とされている。様々な女性軽視の問題を受けて、「自分の身は自分で守ることができるように」「男性の人生に左右されず、女性が彼女自身の道を歩むことができるように」をモットーに、2名の女性が1999年に活動を開始した。FLAKSは、「Frauen (女性)・Lernen (学び)・Arbeit (労働)・Kontakt (出会い)・Service (サービス)」の略である¹⁰⁾。MGHプロジェクトには、2008年から参加している。

2.3 施設の特徴と利用者について

1) 施設の特徴 現在の活動場所と建物は、FLAKSの活動開始5年後に、ハンブルク市が費用を負担し建設された。間取りや配置はFLAKSが計画した。テーマカラーはオレンジとイエローで、「アルトナ地区のオレンジの建物といえばFLAKS」と市民に定着している。家賃は月

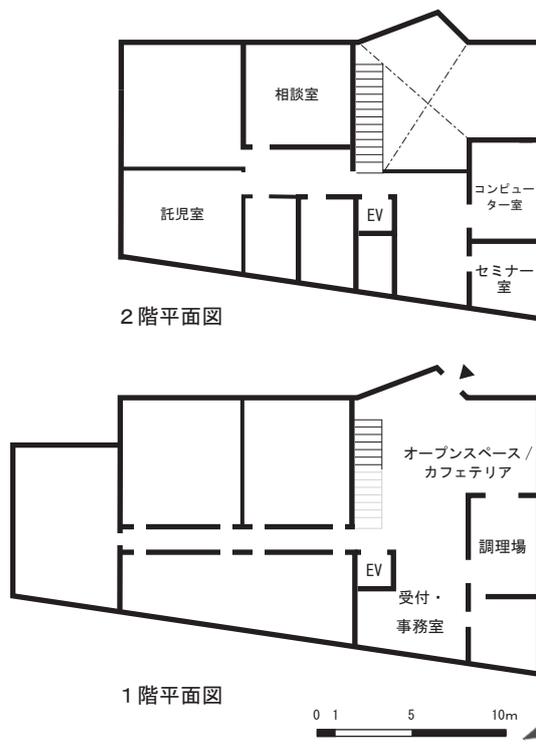


図1 FLAKS 平面図

400 ユーロと格安である。アルトナ地区の人口密度は約 3,605 人/㎥と高く⁹⁾、住居面積が小さいことから、家の中で子どもたちが遊ぶスペースを確保することが難しい課題がある。そのため、施設の中でも子どもたちがのびのびと遊ぶことができる場所を目指している。

また、FLAKS と隣接する子ども施設のシュピールハウス (Spielhaus Alsenpark) や、近隣のアルトナ・ノルド区コミュニティセンター (Bürgertreff Altona Nord) との協力関係がある。

施設の平面図を図 1 に示す。施設には、カフェテリア、オープンスペース、コンピューター室、託児室、セミナー室、受付、事務室、相談室がある。

2) 利用者 利用者は女性に限定しており、スタッフも全員女性である。女性だけの空間では、ムスリムの方がヒジャブをとることができ、安心できるそうだ。利用者数は 1 日あたり約 140 人で、約 40 人が食堂の利用である。利用者の傾向として、シングルマザーや中東の方々が多く、ドイツ人と移民の割合は大体半分ずつであると伺った。また、労働局からの紹介で訪れる利用者よりも、口コミによる利用者の方が多いと伺った。アルトナ地区に立地しているが、女性支援という特徴的なコンセプトを持つ MGH のため、ハンブルク全域から利用者が集まる。



写真 2 カフェテリア

2. 4 運営とプログラムについて

1) 運営について 年間の総予算は約 50 万ユーロで、自主事業はなく、MGH プロジェクト参加による補助金のほか、ハンブルク市、アルトナ地区、EU の欧州社会基金、ハンブルク市民財団、個人からの寄付によってまかなっている。MGH プロジェクトに参加する前から、ハンブルク市やアルトナ地区から支援を受けていたため、資金的に課題はなかったが、語学プログラムに対する助成が出ることや、コースの数を増やすことができること、他の MGH と交流ができることが魅力で MGH プロジェクトに参加した。スタッフは、パートタイム・フルタイム合わせて 16 名で、そのうち 14 名が子どもを持つスタッフである。スタッフ数の不足はなく、空きが出ると多くの人からの応募があるそうだ。また、トルコ語を母国語とするスタッフが 3 名おり、トルコ系の女性のサポートをトルコ語で行うこともある。

2) プログラムについて 食事以外のプログラムの参加は無料で、様々な女性・移民支援プログラムが行われている¹¹⁾。

カフェテリアでは、安価な朝食 (2.5 ユーロ) や昼食 (3.5 ユーロ) が食べられる (写真 2)。様々な宗教の利用者に対応するため、食事は全てベジタリアンメニュー

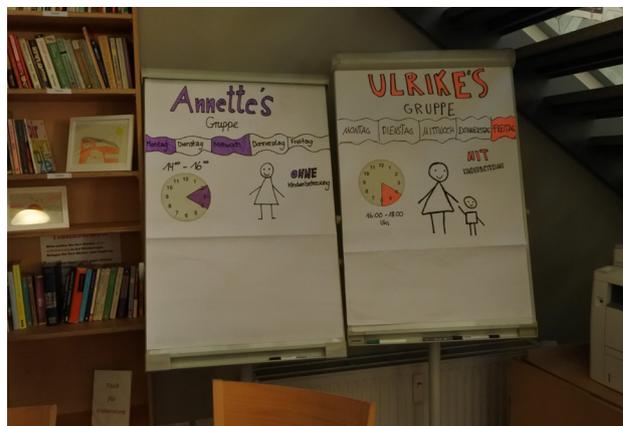


写真 3 視覚的にわかりやすいプログラム説明ポスター



写真 4 託児室



写真 5 外遊びスペース

である。地元のサッカーチームからの寄付や、スーパーの売れ残り食材の寄付により、安価な食事の提供ができています。

移民の方々を中心にドイツ語の識字率が低く、語学プログラムに力を入れている。文字が読めなくても視覚的に理解できるように、イラストでその日のプログラムが分かるように工夫している（写真3）。

日本における中学校卒業を意味する、最初の一般教育卒業証明書（Erster Allgemeinbildender Schulabschluss：ESA）を取得するためのプログラムも実施されている。ESAの取得は、専門的な仕事に就くための職業訓練や、より高度な資格の取得への道につながる。B1以上のドイツ語レベルを有していること（6段階のうち下から3番目で、中級レベル）がプログラム登録の要件であるが、多くの女性が参加している。

ドイツ語の読み書きを学ぶことができるプログラムでは、母親がプログラムに参加している間、託児室に子供を預けることができる（写真4）。隣接するシュピールハウスにも子どもを預けることができ、外遊びの場所もある（写真5）。

働きたい女性へのアドバイスも行っており、事務手続きや面接対策などで支援している。

2.5 課題や今後の展望について

年間の運営予算が50万ユーロと高額であるため、様々な補助事業の情報収集と申請が必要である。MGHプロジェクトはチェック項目が多く、自分たちの裁量で活動できないこと、また、他団体からの援助との兼ね合いが大変であるとのことであった。

3. 事例2：Ev.-Luth. Kirchengemeinde in Schiffbek und Öjendorf

■訪問日：2024年9月6日

■担当者：Herr Rainer Picker氏（MGH管理者）、他

3.1 施設概要

ハンブルクミッテ地区のビルシュテット区に位置するMGHで、施設概要について以下に示す。

□所在地：Merkenstraße 4, 22117 Hamburg

□運営者：Ev.-Luth. Kirchengemeinde in Schiffbek und Öjendorf

□構造・規模：RC造+S造、地上1階+地下1階

□敷地面積：約4,500㎡

□建築面積：約1,200㎡

□延床面積：約1,600㎡

□活動開始年：2004年

□MGHプロジェクト参加年：2006年

3.2 地区の特徴と設立経緯、活動コンセプト

1) 地区の特徴 ハンブルクミッテ地区は、ハンブルク中央部に位置する地区である。ハンブルクミッテ地区の人口は312,641人で、そのうち外国籍人口が97,048人で約31.0%を占めている⁹⁾。また、移民の背景を持つ人口は168,521人で、総人口の54.9%を占めている⁹⁾。外国籍人口割合、移民の背景を持つ人口割合ともに、ハンブルク州の7地区の中で最も高い値である。さらに、失業者数は18,512人で生産年齢人口の約8.2%である⁹⁾。市民手当^{註2)}（Bürgergeld）受給者数は、48,140人で総人口の15.4%を占めている⁹⁾。失業者割合、市民手当受給者割合についても、ハンブルク州の7地区の中で最も高い値である。ハンブルクミッテ地区の中でも、MGHが立地するビルシュテット区に限定すると、失業率は9.6%、市民手当受給者割合は19.0%と、ハンブルクミッテ地区全体の値よりも高い値である⁹⁾。また、ビルシュテット区内には、500人収容可能な難民保護施設が3施設あり、移民に加え、難民の課題も抱えている地域である。移民・難民の割合の高さが、失業率や市民手当受給率の高さにつながっていると考えられ、これらの課題と10年以上向き合っている地域である。

2) 設立経緯、活動コンセプト 活動コンセプトは、「隣人を同じ人生のレベルに持っていこう」である。これは併設する、シフベックとエーイェンドルフのルーテル教会（Parishes Lutheran Church in Schiffbek and Öjendorf）の理念でもある。この教会は、地域の教会傘下の小規模教会として、1964年に建てられた。

宗教的に、ライフステージを4段階（幼少期・青年期・大人期・シニア期）に分けており、それぞれの段階に細



写真6 外観写真

かく焦点を当てた支援を行うことを目指している。また、「何かあったときに最初に相談できる場所」として、他施設とも連携しながら、必要な人を必要な支援につなげる場、文化と世代を超える場を目指している。MGHプロジェクトには、プロジェクト開始年である2006年から参加している。

3.3 施設の特徴と利用者について

1) 施設の特徴 施設の平面図を図2に示す。教会、託児施設 (Kita : Kindertagesstätte)、MGHが同じ敷地に立地していることが特徴的である。中庭を囲むように、建物が配置されている (写真7)。カフェテリア、オープンスペース、物置、地下には職員オフィスがある。

自由に使用できるPCやプリンター、無料Wi-Fi、無料のコーヒーや紅茶のサービスがある。

2) 利用者 利用者は1日あたり約200人で、そのうち約100人が託児施設の利用である。託児施設は、10か国以上の子どもが利用している。無料Wi-Fiやカフェテリアでの安価な朝食を目当てに訪れる利用者もあり、それをきっかけに相談・支援につながる方もいるそうだ。

3.4 運営とプログラムについて

1) 運営について 年間の総予算は30～40万ユーロで、MGHプロジェクト参加による補助金のほか、教会の母体、その他財団の支援によってまかなっている。公的な団体のみで17団体、民間団体を含めると50近くの団体からの支援がある。MGHプロジェクトに参加する前から、教会として活動を行っており、プロジェクトの参加前後で活動内容の変更はない。MGHプロジェクトに賛同したこと、各プログラムへの参加費用が下げられることを理由にMGHプロジェクトに参加した。

スタッフは、フルタイムが2名、プロジェクト管理のための任期付きスタッフが2名、報酬制の講師が30名、ボランティアスタッフが80名と伺った。教会併設型のメリットとして、元々多世代が集まる場所であること、ボランティア精神が根付いており、ボランティアの数が多きことがあげられる。

2) プログラムについて 4段階のライフステージにおける課題を解決するための18のプログラム、移民・難民の背景を持つ人々を国に迎え入れるための14のプログラム、多世代の交流に焦点を当てた14のプログラムなど、1年間で約70のプログラムを実施している¹³⁾。

毎週火・金曜日にはジョブカフェが行われている (写真8)。10人のスタッフから、ドイツで働く際の常識や振る舞いなど、仕事に関するあらゆるアドバイスを受けることができ、毎回約30人が訪れる。移民・難民の背景を持つ人々の自立や就職支援を行う団体である、ASM (Arbeitsgemeinschaft selbstständiger Migranten e.V.) のスタッフからの支援がある。家探しや、子どもの支援金や失業手当などの各種支援金への申請、行政からの手紙の読解など、仕事探し以外の困りごとの相談も受け付けている。通訳のボランティアにより、ドイツ語、フランス語、セルビア語、アラビア語など、多言語でのサポートを実現している。

近隣住民や難民が集まって、携帯の使い方や節電方法、ドイツ語などを互いに教え合うなど、生活の中での小さな困りごとを一緒に解決するというプログラムも実施されている。故人の服の寄付を受けて、必要な人に安価に

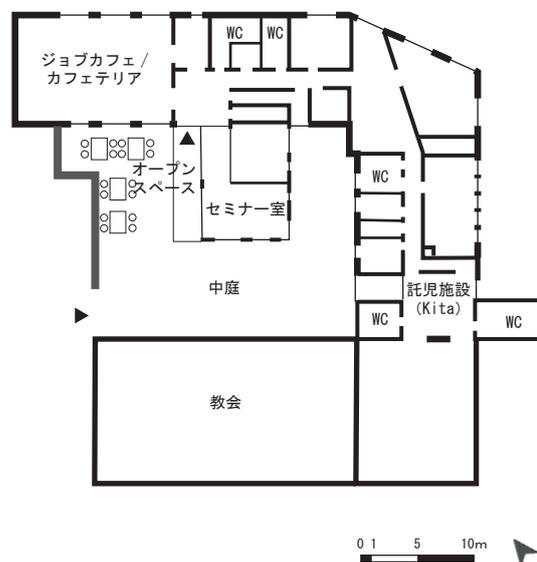


図2 平面図



写真7 中庭



写真8 ジョブカフェ



写真9 教会の内観写真

譲ったり、子ども服を貧しい家庭に無償で配ったりするプログラムも存在する。

教会は、礼拝や行事のほか、音楽や作品展示などのアート活動にも利用している（写真9）。教会内部には、アート作品の展示のためのワイヤーが整備されていた。

3.5 課題や今後の展望について

宗教に関係なく利用できるが、教会併設型のため、キリスト教以外の宗教でも利用できるのか、という印象を利用者に与えてしまうことがある。また、ボランティアが多く集まる施設であるが、ボランティアは地域に根付くものであるため、ボランティアの集め方は教えることができるが、他地域の他施設への仕組みの援用は難しい面がある。さらに、MGHはSNSでの発信が足りず、活動を若者にも広げる必要があると感じている、とのことだった。

4. 事例3：BARMBEK° BASCH

■訪問日：2024年9月6日

■担当者：Sangeeta Fager氏（MGH管理者）

4.1 施設概要

ハンブルクノルド地区のバルムベック・スード区に位置するMGHで、施設概要について以下に示す。

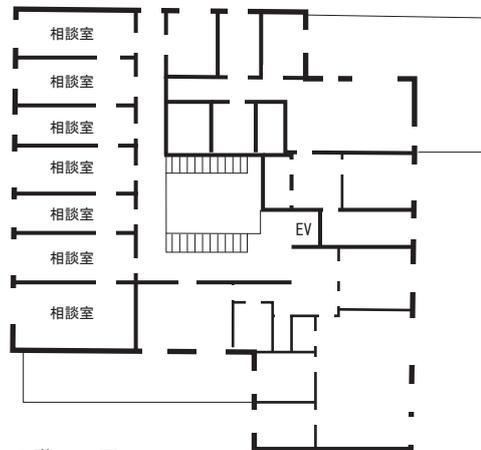
- 所在地：Wohldorfer Straße 30 22081 Hamburg
- 運営者：BASCH e.V.
- 構造・規模：RC造、3階建て
- 敷地面積：約1,200㎡
- 建築面積：約700㎡
- 延床面積：約1,600㎡
- 活動開始年：2009年
- MGHプロジェクト参加年：2012年

4.2 地区の特徴と設立経緯、活動コンセプト

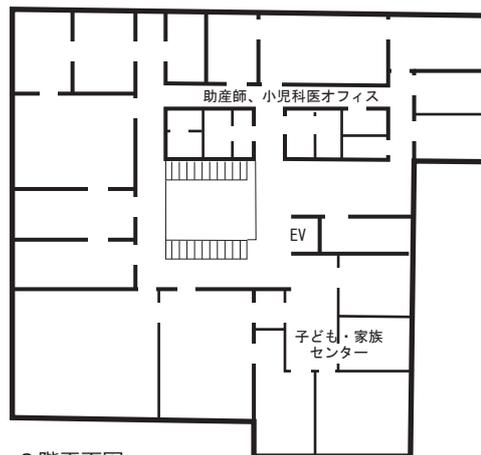


写真10 外観写真

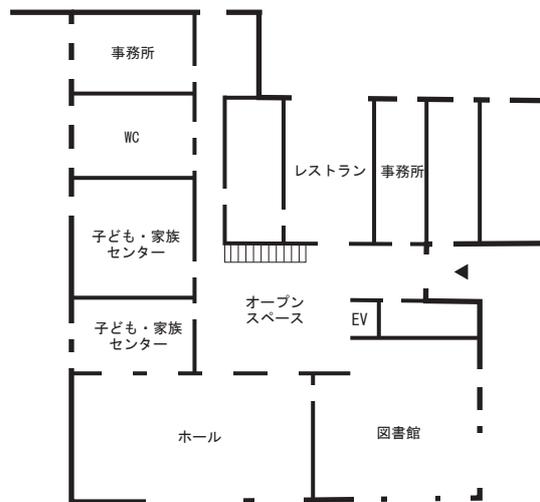
1) 地区の特徴 ハンブルクノルド地区は、ハンブルク北部に位置する地区で、人口は328,454人、うち外国籍人口が56,252人で約17.1%を占めている⁹⁾。また、移民の背景を持つ人口は108,078人で、総人口の32.9%



3階平面図



2階平面図



1階平面図

0 1 5 10m

図3 平面図

を占めている⁹⁾。失業者数は13,041人で生産年齢人口の約5.5%、市民手当受給者割合は総人口の7.4%である⁹⁾。

2) 設立経緯、活動コンセプト アルト・バルムベック教区、子ども・家族センター (KiFaZ)、デーハイデ図書館、文化ポイント・バッシュ (Kulturpunkt Basch)、AWO^{注3)} 高齢者集会所、ハンブルクノルド地区の子ども・若者・家族のためのバルムベック相談センター、ハンブルクノルド地区の母親相談センターの7団体が協力し、設立したMGHで、活動コンセプトは、「赤い糸を通し続ける」と設定されている。教会・文化・社会問題センターとして、誰でも受け入れる、人と人をつなぐ、軸をぶらさないという意味がある。

デーハイデ図書館とAWO 高齢者集会所が連携して活動しており、その活動に共感した教会が加わり、さらにハンブルクノルド地区の相談センターが加わる形で、最終的に2009年に現在の7団体の協力体制が築かれた。2010年に現在の建物が建てられ、2012年からMGHプロジェクトに参加している。

4.3 施設の特徴と利用者について

1) 施設の特徴 教会・文化・社会に関する様々な専門家が集まるコミュニティセンターとしてはドイツ初の事例である。協力している7団体や各団体に所属する専門家はそれぞれ独立して活動しているが、密接な協力関係がある。

平面図を図3に示す。1階から3階まで吹き抜けになっている。吹き抜け下部はオープンスペースになっており、無人の物々交換スペースもある (写真11)。7団体の活動スペースのほか、コンサートや会議ができるホールや、施錠できるベビーカー置き場、レストランがある。

2) 利用者 利用者数は1日あたり約300人で、0～104歳まで多世代が訪れる。月に1回開催するフリーマーケットが人気のプログラムで、お年寄りを中心に約600人が訪れる。ハンブルクノルド地区の子ども・若者・家族のためのバルムベック相談センターは、年間約1,000

家族が利用している。

4.4 運営とプログラムについて

1) 運営について 協力している7団体は、それぞれに支援団体があるなど、独立して会計を行っている。BASCH e.V. としての会計も独立している。

2009年に付近の教会が財政的な理由で取り壊しになった。土地を売ったお金で、教会が2010年に現在の建物を建てたため、建物の所有者は教会である。BASCH e.V. が教会から建物を借りており、7団体はBASCH e.V. に家賃を支払いスペースを借りている。BASCH e.V. は、7団体からの家賃収入と、ホールなどのレンタルスペースからの収入、ハンブルクノルド地区からの支援によって年間の予算である約14万ユーロを賄っている。

MGHプロジェクトに参加する前から、多世代に向けた活動を行っており、地区や他団体からの支援があったが、新たなプログラムとして、多世代が集まるお祭りを開催したい思いがあり、予算獲得のために7団体で協力してMGHプロジェクトに参加した。

BASCH e.V. から雇われている、MGHとしてのスタッフは、パートタイム・フルタイム合わせて4名である。MGHのスタッフは、7団体が協力するための予算や人のコーディネート役割を担っている。

2) プログラムについて 7団体の協力により、あらゆる人のための幅広いプログラムが実施されている¹⁴⁾。

デーハイデ図書館は、ハンブルクで1番小さな図書館と言われており、7～22時まで利用できる (写真12)。職員がいない時間帯も会員証で入館できる仕組みになっている。ドイツ語や中国語での読み聞かせプログラムがあり、中国語の読み聞かせプログラムには、ハンブルク全域から中国の方が訪れる。

「BASCHファミリー」というプログラムでは、50歳以上の人と核家族をマッチングさせる。ドイツ語を母国語としない親・子どもであっても、ドイツ語で深い思考ができるようにすることを目指す取り組みである。

ハンブルクノルド地区の子ども・若者・家族のための

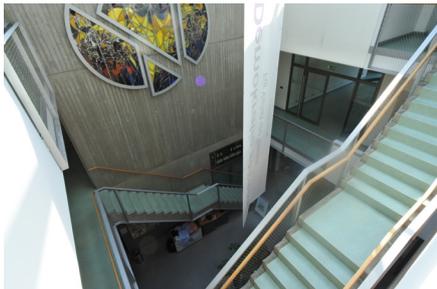


写真11 吹き抜けスペース



写真12 デーハイデ図書館



写真13 相談室

バルムベック相談センターは、人生に関するあらゆるアドバイスを行っている。プライバシーに配慮した相談室を設け、オープンスペースでは話しづらい悩みを相談できる。利用者の名前や住所などは聞かず、相談内容の秘密を守ることを徹底している。施設内の協力7団体以外の他団体とのつながりもあるため、必要に応じて紹介できる。

4.5 課題や今後の展望について

吹き抜けは音の反響があるため、結果的に扉を閉める必要が出て開放的ではなくなってしまった。

協力している7団体と、MGHを統括するBASCH e.V.はそれぞれ独立した会計を行っているため、財源確保が複雑化している。例えば、デジタル機器の使い方を教える会という1つのプログラムを開催するにも、機器の購入費用はAWOと教会の予算から、講師への報酬はMGHの予算から、など複数の予算を組み合わせてうまく使う必要がある。

5. 結論

本稿では、ドイツ北部のハンブルク州に設置された3か所のMGHについて、現地でのヒアリング調査および実測調査をもとに、各事例の取り組みや地域の居場所としての役割について報告した。

3事例それぞれが多様なコンセプトで、女性支援、移民・難民支援、就労支援、子育て・家族支援などの、地域が抱える様々な課題の解決と、多世代が交流する場の実現を目指している実態が明らかとなった。また、地域団体やボランティアなどの地域資源をうまく活用していること、MGHプロジェクト参加による補助以外の複数の資金援助を組み合わせるなどの、柔軟な資金繰りの実態があることを明らかにした。

謝辞

本研究にご協力いただきました皆様に、篤く御礼申し上げます。また本報告は、JSPS-22H01668、JSPS-24KJ0515の一環として行われました。

【注】

注1)e.V.とは、eingetragener Vereinの略で、日本語訳としては「社団法人」に相当する。

注2)市民手当(Bürgergeld)とは、社会法典第2編(SGB II)に基づき、長期の失業者や一定レベルの収入に満たない労働者に対し、国が最低限度の生活を保障するための給付である。社会法典第3編(SGB III)に基づく、通常の失業手当(Arbeitslosengeld)の受給期間を満了しても、失業状態が続く長期失業者の受給が多い。¹²⁾

注3)AWOとは、「Arbeiterwohlfahrt」の略で、労働福祉団体という意味である。

【参考文献】

- 1) 下平真由, 山田あすか: ドイツ全土に広がる「多世代の家」の概要と実態調査報告, 日本建築学会地域施設計画研究論文集, vol. 42, pp. 173-182, 2024. 7
- 2) 佐藤栄治, 内田琉奈, 下平真由, 竹澤くるみ, 山田あすか: d 老津全土に広がる多世代の家の立地特性についての分析, 日本建築学会地域施設計画研究論文集, vol. 42, pp. 183-188, 2024. 7
- 3) 下平真由, 米ケ田里奈, 松原茂樹: 団地再生と分散・分棟の地域拠点の創成とその組織化の面から「多世代の家」が果たす役割 - フランクフルト近郊の3つの「多世代の家」-, 日本建築学会地域施設計画研究論文集, vol. 42, pp. 189-196, 2024. 7
- 4) 池上柚月, 山田あすか: ドイツ東部の都市ライプツィヒにおける地域課題と地域特性に根ざす「多世代の家」-教育・文化と子育て、そしてユダヤコミュニティへのケアの場としての多世代の家-, 日本建築学会地域施設計画研究論文集, vol. 42, pp. 197-206, 2024. 7
- 5) 村川真紀, 加藤悠介, 小篠隆生: ニュルンベルグの多世代の家 青少年保護と移民への間接的就労支援 - ドイツの多世代の家その7 SOS-Kinderdorf Nürnberg Mehrgenerationenhaus Schweinau, MGH AWOthek Südstadt- 日本建築学会地域施設計画研究論文集, vol. 42, pp. 223-232, 2024. 7
- 6) 米ケ田里奈, 山田あすか: 地域丸ごと再生の核となった多世代の家「ドルフリンデランゲンフェルト」- ゆりかごから墓場までを体現する機能複合を分散ネットワーク型で整備した「多世代の家」-, 日本建築学会地域施設計画研究論文集, vol. 42, pp. 207-216, 2024. 7
- 7) 古賀政好, 加藤悠介: 聖エリザベート老人ホーム - 老人ホームに暮らすお年寄りと移民の若者や子どもたちが共に過ごす時間をつくる多世代の家 -, 日本建築学会地域施設計画研究論文集, vol. 42, pp. 217-222, 2024. 7
- 8) ドイツ連邦統計局 (Federal Statistical Office), “Population by nationality and federal states”, < <https://www.destatis.de/EN/Themes/Society/Environment/Population/Current-Population/Tables/population-by-laender-basis-2022.html> > (参照: 2025. 03. 02)
- 9) Statistisches Amt für Hamburg und Schleswig-Holstein (ハンブルク・シュレースヴィヒ=ホルシュタイン州 統計局), “Hamburg ページ”, < <https://region.statistik-nord.de/detail/10100000000000000000/2/1716/> > (参照: 2025. 03. 03)
- 10) 連邦家族・高齢者・女性・青少年省 (Bundesministerium für Familie, Senioren, Frauen und Jugend), 「多世代の家」HP, “Mehrgenerationenhaus Hamburg Altona - FLAKS”, < <https://www.mehrgenerationenhaeuser.de/mehrgenerationenhaeuser/haeuser-in-ihrer-naehe/steckbrief-mehrgenerationenhaus/mehrgenerationenhaus-hamburg-altona-flaks> > (参照: 2025. 03. 03)
- 11) FLAKS e.V. HP, < <https://www.flaks-zentrum.de/> > (参照: 2025. 03. 03)
- 12) 連邦労働社会省 (Bundesministerium für Arbeit und Soziales), “Bürgergeld”, < <https://www.bmas.de/DE/Arbeit/Grundsicherung-Buergergeld/grundsicherung-buergergeld.html> > (参照: 2025. 03. 04)
- 13) Ev.-Luth. Kirchengemeinde in Schiffbek und Öjendorf HP, < <https://www.doppelfisch.de/> > (参照: 2025. 03. 04)
- 14) BARMBEK° BASCH HP, < <https://barmbek-basch.info/> > (参照: 2025. 03. 04)